

花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2020.SPRING



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. 32

授業紹介 - 教育の現場 -

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information

特集

人文社会科学総合型学部
「経済科学部」誕生

広がる学び・深まる学び



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY



Cover Photo

経済学部が入る人文社会科学系棟の学生玄関前。普段なら多くの学生が行き交う姿が見られる時期だが、通常の講義室等での対面授業が行われていない今年は人の往来がない。活気あふれるキャンパスが早く戻ってくることを切に願う。

2020.SPRING vol.32

CONTENTS

特集

人文社会科学総合型学部 「経済科学部」誕生

～広がる学び・深まる学び～

03

08 授業紹介 -教育の現場-

09

Enjoy! 学生ライフ

10

注目される研究報告

12

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

13

OBOG・教員によるコラム

14

基金関係のお知らせ

16

Campus Information

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実！

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取り組みや普段の様子、フォトジェニックな風景などをお楽しみいただけます。



『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

特集

人文社会科学
総合型学部

「経済科学部」誕生

～広がる学び・深まる学び～

経済学を社会科学 人文科学に裾野を 広げた科学の場に

2020年4月、新潟大学経済学部が、「経済科学部」という新しい学部生まれ変わった。経済学は社会における様々な経済活動を、経営学は企業経営や組織を学ぶ。どちらも背景には人間の営みがあり、その営みが交じり合う社会が存在する。経済学・経営学の理解において「人間」「社会」の理解は欠かせない。これまでの学部名に「科」の二字を加えて新学部が名付けられたのは、従来の経済学から他の社会科学、さらには人文科学にも裾野を広げた「科学」の場にするのだというメッセージだ。これまでの経済学と経営学から、学びはどのように広がり、そしてどのように深まるのか。さらに経済科学部は、学生たちが卒業後に向かう社会や未来をどのように見据えているのか。山崎剛志経済科学部長に聞いた。

経済学と経営学を 広げ、深める 4つのプログラム

「高校生が大学進学で学部を選ぶ時、学部で学ぶことを正確に理解して入学する人は意外に少ないように思います。私自身は経済史を勉強したいと思い経済学部に進みました。しかし、入学後により興味を持った講義は、やや数学的な経済理論に関するものでした。私のように入学後に興味関

心の中心が変わる場合もあると思います」

グローバル化・IT化の進展の中で、私たちは自分の意思と興味の手に入れられるようになった。多感で成長著しい学生が4年間の学びの中で新たに興味を持つ分野を発見し、そこに進むとするのは自然なことだ。

「教養科目として専門領域以外を学ぶことは従来の経済学部でも可能でした。しかし往々にして、せっかく様々な分野の科目を履修



経済学部が2020年4月1日に経済科学部に生まれ変わった。経済学部が長年積み上げてきた蓄積を踏襲しながら、常に変化する社会に応じ、その時代が求める学びを提供する。その挑戦を特集する。

※2020年度第1学期の授業は非対面型で行われており、通常の講義室等での対面授業は実施されていません。特集に掲載している授業等のイメージ写真は以前撮影したものです。



経済科学部長
山崎 剛志 教授
東京都立大学経済学部卒、ニューヨーク州立大学バッファロー校Ph.D.(博士号)。2002年4月より本学勤務。ミクロ経済学の授業を担当。2020年4月より経済科学部長。

**複眼的に
日本を理解する
学際日本学プログラム**

「経営学と会計学、税法に関する専門知識を体系的に身に付け、企業の現状や問題を正しく理解、分析する能力を修得します。また、ゼミ形式で、現実の社会問題について論理的に考察、解決していくことで、経営学や会計学、税法の知識を常に現実の問題と結びつけ、課題解決に取り組める能力を養います」



先述した2つのプログラムは、経済科学部の長年の伝統と蓄積を展覧させたもの。そして後述するものが、視野を広げ様々な立場の人との共修で学ぶ2つの新しいプログラムだ。

「学際日本学プログラムは、社会科学と人文科学の垣根を越えて、政治・経済から思想やアニメーションに至る、日本の社会と文化の幅広い問題を対象とします。留学生との対話を積極的にカリキュラムに取り入れ、異なる境遇や価値観の人々との協働を通して、現代日本の課題を見つめ直し、積極的な情報発信する姿勢を身に付けることができます」

学生は自ら選んだ複数の人文社会科学分野の基礎知識を修得することによって、複眼的に「日本」を分析し、理解する方法を学ぶ。また、グローバルな視点から日本をめぐる問題を理解するために、外国語の学修を重視。留学生をまじえたゼミで活発な議論を繰り返すことによって、粘り強い対

学際日本学プログラム

グローバル時代の「対話」力を備えた人材育成を目指す



新潟大学経済科学部 番場 俊 教授

「学際日本学って、どんなところなんだろう。経済科学部にあるけど、経済っぽくないよね」と思ったあなた。その感想は、半分は正しく、半分は間違っています。学際日本学プログラムは、旧経済科学部の教員と、人文科学部・法学部から移籍してきた教員で作ったプログラムですから、普通の経済科学部っぽくないのは当然です。その専門も、歴史あり、政治あり、文学・思想あり、アニメーションありと、様々。学部の壁を越えたこんな学びの場が必要なのは、私たちが生きている「日本」が、たった一つの観点からでは解けない問題に満ちているからです。越えなければならないのは学部の壁だけではなく、外国語を重視し、アジア諸国から迎える優秀な留学生と「ともに学ぶ」ことを重視する学際日本学は、グローバル化の時代に必要で、「対話」力を備えた人材の育成を目指しています。「経済っぽくないよね」という感想の半分が間違いなのは、それが経済学に対する誤解だからでもあります。経済の担い手は、人文的な欲望に衝き動かされ、法と政治の壁にぶちあたる生身の人間です。経済学もまた、生まれ変わろうとしているのです。



話力と協働力、課題解決能力を身に付けられるのが特徴だ。グローバル社会で活躍する人材には自国文化を俯瞰的に見る視点と、それを発信・主張する能力が不可欠。従来の経済学の枠にとらわれないユニークでアカデミックな学問分野だ。

地域社会で活躍する人材には、経済学、企業経営、財政、法律、芸術などの幅広い知識だけでなく、

**協働で課題解決を学ぶ
地域リーダー
プログラム**

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

経済学と 経営学が 出発点 学びをさらに 深め広げていく

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

企業の問題を根源的に考察したり、解決策を模索することで、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、幅広い視野を持って課題解決に取り組める能力を身に付けます」

経済科学部の4つのプログラム

経済学プログラム

経済学の多様な考え方を学び、私たちが日々直面する経済問題を分析する能力を養う。また、グローバル経済の専門知識も修得する。

進路 ●銀行員 ●公務員 ●サービス業 ●製造業 等

学際日本学プログラム

社会科学と人文科学の垣根を越えて政治・経済から思想やアニメーションに至る、日本の社会と文化の幅広い問題を対象にする。

進路 ●メディア産業 ●観光業 ●公務員 ●コンテンツ産業 等

経営学プログラム

企業の運営・管理についての理論的な学習や、事例を通じた実践的な学びから、企業の経済活動に関わる諸問題について分析。課題解決を主体的に学ぶ。

進路 ●銀行員 ●公務員 ●サービス業 ●税理士を目指す大学院進学 等

地域リーダープログラム

現代社会の現状を理解・分析し、ゼミや現役社会人との協働作業を通して、地域の経済・社会の諸課題解決を主体的に学ぶ。

進路 ●起業家 ●公務員 ●NPO職員 ●民間企業 ●議員 等

体系立った知識につなげる 経済科学部の特徴的な4プログラム

直面する経済問題を分析し学ぶ
経済学プログラム

グローバル化が進む現代、市場経済は地球全体に広がっている。経済学はこれまで以上に学問としての重要性を問われている。経済をとりまく世界的な情勢を見て、新潟大学の経済科学部では、経済学と経営学を出発点にし、それを「深めていく」経済学プログラムと経営学プログラム、「広げていく」学際日本学プログラムと地域リーダープログラムから選ぶことができる。

グローバル化が進む現代、市場経済は地球全体に広がっている。経済学はこれまで以上に学問としての重要性を問われている。経済をとりまく世界的な情勢を見て、新潟大学の経済科学部では、経済学と経営学を出発点にし、それを「深めていく」経済学プログラムと経営学プログラム、「広げていく」学際日本学プログラムと地域リーダープログラムから選ぶことができる。

グローバル化が進む現代、市場経済は地球全体に広がっている。経済学はこれまで以上に学問としての重要性を問われている。経済をとりまく世界的な情勢を見て、新潟大学の経済科学部では、経済学と経営学を出発点にし、それを「深めていく」経済学プログラムと経営学プログラム、「広げていく」学際日本学プログラムと地域リーダープログラムから選ぶことができる。

グローバル化が進む現代、市場経済は地球全体に広がっている。経済学はこれまで以上に学問としての重要性を問われている。経済をとりまく世界的な情勢を見て、新潟大学の経済科学部では、経済学と経営学を出発点にし、それを「深めていく」経済学プログラムと経営学プログラム、「広げていく」学際日本学プログラムと地域リーダープログラムから選ぶことができる。

グローバル化が進む現代、市場経済は地球全体に広がっている。経済学はこれまで以上に学問としての重要性を問われている。経済をとりまく世界的な情勢を見て、新潟大学の経済科学部では、経済学と経営学を出発点にし、それを「深めていく」経済学プログラムと経営学プログラム、「広げていく」学際日本学プログラムと地域リーダープログラムから選ぶことができる。

グローバル経済の専門的知識も修得することができる。

「本プログラムでは経済学に関する専門知識を体系的に身に付け、社会現象や現代社会を正しく理解、分析する能力を身に付けます。また、ゼミ形式で、現実の社



グローバル経済の専門的知識も修得することができる。



たり、現役社会人とともに現代社会の課題を探索、解決していくことで、多様な人々と協働しながら課題解決に取り組める能力を養います」

深まり、広がる学びで未来の人材を育てる

新たに4プログラムを設置した経済科学部。グローバル化やIT化と言われる世界の変化、それに

伴う社会から求められる人材の変化に対応する部分はあるのだろうか。「個人レベルの感覚ですが、以前に比べて海外への関心を持つ学生の割合は増えたと思っています。複雑なグローバル化の中で、卒業後の社会で必要とされる能力も変わってきているでしょう。社会情勢やニーズは変化し続けますが、地方大学として地域に貢献する人材を育成する使命は変わりません。私が経済学部時代

より広く、より掘り下げた 学びをした学生は将来の地域に 貢献する人材になる

に担当した卒業生の多くは地方公務員や銀行員として活躍していますが、経済科学部を卒業する学生たちは、経済学と経営学の知識を持ちながら、日本文化の豊かさやリアルな地域課題を肌で感じたうえで社会に出ていくことができるはず。より広く、より掘り下げた学びをした学生は、地域に貢献できる人材になると思います」

私たちが生きる地域、日本、ひいては世界を捉えるとき、ひとつの視点からだけでは説明するのは不可能だ。だからこそ学問や文化の壁を越えた学びの場が必要とされている。そこで養われるのは、周囲と対話し協働しながら、常に課題を発見し解決し続ける力だ。激動の時代において、誰もが経験したことのない課題に直面するのは想像に難くない。協働して挑戦を繰り返していくタフさが、新しい時代を生きる学生たちには必要なように思われる。机の上での学びを置き、リアルな経済社会を材料にして「五感」で学ぶ経済科学部。深まり、広がっていくその学びに期待が高まる。



経済科学部の学生は日本文化の豊かさや 地域が抱えるリアルな課題を 肌で感じながら学ぶことができる



地域リーダープログラム

他者と協働し生涯にわたり学び続けられる人材を育成



新潟大学経済科学部
中東雅樹 准教授

今回新設した地域リーダープログラムは、変化が激しい現代において輩出すべき人材として「他者と協働しながら生涯にわたり自ら学び続けられる人材」を育成することをコンセプトにした学位プログラムです。今後訪れる将来では、経験のない困難な課題に繰り返し直面し、他者とも協働して新しいものに取り組みなければならないことが数多く生じるでしょう。こうした時代でも生き抜くことができる人材を育てるため、地域リーダープログラムでは、「自ら学ぶ方法の修得」と「社会人との共修」を中核にしたカリキュラム編成をしています。カリキュラムは3つの柱からなります。専門知識の学び（知識・理解科目）では、経済学・経営学を中心に据えながら、人文社会科学分野全般も学ぶことができます。また、少人数教育の授業（実践学修科目）も数多く設けており、専門知識の定着や活用だけでなく、社会人と一緒に課題解決活動に取り組む授業などから選ぶことができます。さらに、考える、調べる、論述するスキルの修得にも着目し、繰り返し学習、経験する機会を授業（アカデミックスキル科目）として設けています。



く、地域の課題を把握し、自ら解決策を立てリーダーシップをもって実行できることが求められる。地域リーダープログラムでは現代社会の現状を理解・分析し、ゼミや現役社会人との協働作業を通して、地域の経済・社会の諸課題解決を主体的に学ぶことがで

きる。

「経済学・経営学を中心とした人文社会科学の専門知識を身に付け、世界の現状を正確に理解、分析する能力を身に付けられます。また、思考、調査、論述する方法の取得を重視しながら、ゼミ形式で現代社会を深く分析し

研究課題

医師の専門職教育／生涯キャリアから伝統文化の継承まで、当事者の視点から探究する一学び・成長・形成・支援、ジェンダー

医療者がキャリアと生活を培っていくプロセスと教育的課題に多面的に取り組む



人文社会科学系(創生学部)
渡邊洋子 教授

Profile | 博士(教育学)。生涯教育学(社会教育・成人教育・生涯学習を柱とする教育学)。近年は専門職教育

渡邊洋子教授は、職業や社会文化活動の担い手、すなわち当事者が、「一人前」になるまで、「一人前」の存在として、公私を生きていくプロセスに、学習／教育の観点からアプローチする。

「具体的には、その当事者が、多様な場面・多様な方法で学び、必要な知識・技能・態度等を身につけ、価値観やアイデンティティを確立しながら自己形成し、他者や出来事・事物と関わる中で、大小の変容を繰り返しながら、生涯を通じて成長・活動・生活していくプロセスを、学習と教育の見地から探究しています」

現在の研究に至るようになった契機は、修士課程の時に来日したイギリス・ノッティンガム大学の教授の講演。その内容に感銘を受け、渡英。成人教育者が「成人

を教える」ために行う研修についての3か月間の実地調査を行った。その成果を日本の社会教育・生涯学習に活かすべく、京都大学赴任後に担当した科目のテキストとして『生涯学習時代の成人教育学—学習者支援へのアドヴォカシー』(2002)を刊行。また、2006年に奈良県立医科大学の医学部教授から送られた「外科医から医学教育の仕事に入り、抱えていたもやもやの90%が、同書を読んで解決した」というメールにも大きな影響を受けた。

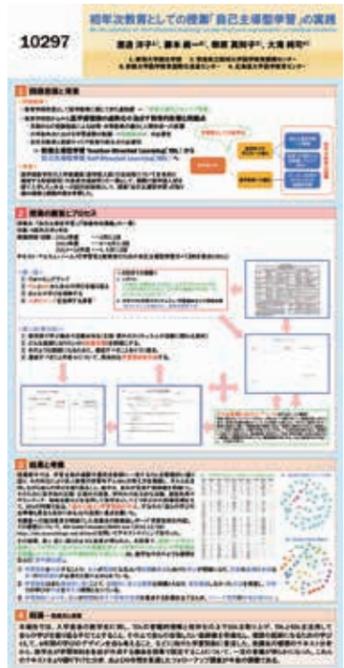
「同教授の依頼で、翌年、日本医学教育学会研究大会の『教育講演』を担当することになりました。それ以降、同学会の医学教育専門家認定制度の立ち上げに、ゼロ段階から参加させていただくこと。医学教育との関わりは以来、ずっと続いており、私の学術研究／実践研究の一大領域となっています」

医療者、特に医師が専門職として「一人前」になり、生涯を見通しながら専門職性とキャリアと職業人としての生活を培っていくプロセス、および各場面に見出される教育学的課題に、多面的に取り組んでいる。

「学校教育段階から医学部入試、医学部での卒前教育、医師免許を取って



一連の著書。『生涯学習時代の成人教育学』では、欧米の成人教育と対照的な東アジアの生涯学習への注目につなげた



奈良県立医科大学の1年生対象授業「自己主導型学習」の成果を日本医学教育学会で発表



日中韓の伝統文化継承と生涯学習に関する国際シンポジウムを開催(北京師範大学珠海分校にて)

からの卒業教育、医師としての自己研鑽の生涯の視野において、医療現場や医療者養成の実践的課題・改善可能性の探究に向けた研究を行っています。医学部入試と医学教育、転換・導入教育としての自己主導型学習、キャリアヒストリー法を用いた男女医療者の生涯キャリアデザイン教育実践、女性専門職教育としての女性医師の史的・実践的研究などが具体的なテーマです」

研究課題

遺伝／ゲノム医療など、難しい状況下での意思決定支援(共有意思決定Shared decision making)に関する研究

医療者と患者が相互に影響し合いプロセスを共有し決定することが重要

1980年代から出生前診断が可能になり、妊婦は生まれる前に胎児の健康状態や先天異常の可能性について知ることが可能になった。さらに母体血清マーカーや新型出生前診断など医療技術は進歩を続ける。出産に至るまでに様々な選択肢ができたとき、私たちは生命倫理の課題に向き合うことになる。有森直子教授はそのような場面における意思決定支援の教育プログラムに取り組んでいる。

「出産における健康と権利を守るためには十分な情報提供をしていくことが必要です。なぜなら、そこには本人たちの意思だけでなく、社会や家族の価値観、次世代への遺伝など、様々なことが影響する難しい状況があるからです。だからこそ医療者ではなく、カップルが自立的に決定するために知識や情報が十分に彼らに提供さ

れていることが重要なのです」

では、正しい情報を伝え、ひとりひとり異なる価値観を持つ個人を支援するためには何が必要なのか。

「私が注目しているのは『シェアードディシジョンモデル(共有意思決定)』。医療者と患者が話し合い、協働して意思決定する方法です。複数の選択肢とそれぞれのベネフィットとリスクについてできる限り提供することで、当事者を巻き込み、相互に影響し合うことで、望ましい決定に向けた行動に歩みを進めることができると考えています。医療者はパターンリスティックではなく、プロセスを共有する存在であることが大切です」

そのパートナーシップを築く上でポイントになるのが、医療者が患者に伝えるリテラシーとコーチングの提供方法だ。

「ひとつはデシジョンエイド。これはデータに基づく統計等の情報と、患者に似た事例の物語の提供。もうひとつはデシジョンガイド。カナダのオタワ大学で発表された『オタワ意思決定ガイド(個人用)』は汎用性が高く、どういう順序で決定を進めればよいのかを示している、私はこれを翻訳し、紹介しています。医療者は患者がどの選択肢を選んでも支援し続けるという姿勢を持つことが重要です」



医歯学系(医学部保健学科)
有森直子 教授

Profile | 博士(看護学)。遺伝看護と意思決定支援に関する研究を中心に行う



遺伝ゲノム看護のエキスパートの育成に力を入れる

生き方が多様化する現代、医療者は「患者はひとりひとり違う」という前提で向き合うことが求められ、患者も自らの意思を医療者に伝えて良いのだと思える土壌作りが求められる。これらの研究は遺伝看護専門看護師の育成のためにも重要だ。「人間はどう生きるか」がかつてないほど問われる時代に注目すべき研究だ。



有森教授が考える意思決定支援のプロセス



オタワ意思決定ガイド(個人用)

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介!

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク

新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

主な事業



詳細をお知りになりたい方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。新潟大学産学連携協力会 検索 <http://www.ircp.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/>

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会(新潟大学地域創生推進機構内) TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@ccr.niigata-u.ac.jp

ときめく「知」の交流

地域社会への知的貢献を行う拠点として、「新潟大学駅南キャンパスときめい」と設置されています。

新潟駅直結のPLAKA1に位置する抜群の利便性のほか、約610㎡(185坪)の広さに、大小の会議室、展示イベント等に使用できる多目的スペースを提供しています。それぞれの会議室には大型スクリーン、プロジェクター等のAV機器が用意され、講義のほか、講演会やセミナーにも最適です。どうぞお気軽にご利用下さい。

お問い合わせ・お申し込みは 新潟大学駅南キャンパスときめいと 〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1丁目1番地 プラカ1 2階 Tel:025-248-8141 Fax: 025-248-8144 E-mail: tokimate@adm.niigata-u.ac.jp

活躍する卒業生紹介

“学びの先”

新潟大学で“真の強さ”を学び、
社会に羽ばたいた10万人を超える卒業生。
社会で活躍する卒業生をご紹介します。



新潟県知事政策局
まさかたあきひろ
榊潟晃広さん
Profile.

新潟県長岡市出身。1981年生まれ。2005年3月工学部建設学科卒、2008年大学院自然科学研究科修了。同年、新潟県庁に入庁。現在は、地域政策課地域づくり支援班に所属。

公共空間の利活用と新たな税収モデルを創出

昨年、新潟県庁内にある芝生の広場を利用し、8月に「県庁前ナイトマルシェ」、12月に「クリスマスマーケット@県庁の森」と、2本のイベントが開催された。会場内には飲食や物販ブース、子ども向け体験アトラクションが並び、心地良い音楽が流れる中、大勢の人たちで賑わった。公共空間の利活用と県の新たな税収モデルケースとして注目されたこの取り組み

「公共空間を運営する 仕組みづくりは 街の日常を変えていく」

を主催したのは、新潟県庁の20〜40代若手・中堅職員で組織される「新潟県公民連携推進プロジェクト」。代表を務めるのは榊潟晃広さんだ。「県の未来について同僚と語り合う中で、群馬県の先行事例をもとに計画しました。自分も含めて、県庁の広場をイベントで使っていくの？と思うような場所でもやりたかった。地域社会だけでなく庁内の反応や意識変化がダイ

レクトに得られると思いましたが」ここに至ったきっかけは、ごく個人的な気持ちの変化だったという。「建築技師として入庁した自分は、地域づくりに興味はあってもそこに携わる機会はなかなかない」と悶々と過ごす中、街を変えようと官民を超えて取り組む「若者会議」やネットワーク、勉強会と出会う。また、自治体職員が地域の活性化を自主的

に学ぶ「リノベーションスクール」に参加した。「外で上げた成果は、本業にもフィードバックされる。パレルキャリアと自己実現は密接に関わっていると感じました。仕事だけに縛られず、同志と協力する中で、地域の課題を自分事として考えられるようになる。そのような地域づくりは、自分や子どもたちが生きる、未来づくりにつながっていると思います。経験

Information

【新潟県リノベーションまちづくり】
新潟県公民連携推進プロジェクト
Facebook
<https://www.facebook.com/niigata.renovation/>
【榊潟晃広さんの個人Facebook】
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100004082870275>

がなくとも協力しアドバイスをいただきたいながら、公共空間を運営する仕組みや、街の日常を変えていくことはできる。これが新潟県の新しい都市経営のきっかけになればと思います」新しい公共空間創出への道は、公私を超えて自らの大きなテーマとなった。その萌芽は学生時代から自身の中に存在していたと振り返る。「所属研究室で榊尾の雁木を通じた街づくりに関わっていたし、当時から地域を変えていく仕組みがありました。漠然とした目的や理想を形にするために、とことん考え抜き、没頭できる貴重な時間が新潟大学で過ごした時間だったと思います」それは今、榊潟さんが生きる未来につながっている。

今回のテーマ「春」

春 といえは始まりの季節。ということでも私今この活動を始めたときのことを少し思い出しながら振り返りたいな。

六花でこうして記事を書いているのも新潟大学を卒業したから。09年卒業した人ならわかるはず笑。入学して、教育学部学校教育養成課程教科教育コース理科教育専修では生物が専門でした。ここまでで想像がつくと思いますが、もともと理科を教える先生になるために勉強をしていたんです。前にもコラムで書いたかもしれないですが、先生になることは小さな頃からの夢で、大学の学部選びも迷わず教育学部一択で選んだほど。

「どうして先生にならなかつたのか？」に理由はいくつかあるのですが、学校教育という仕事を通して、生徒達に人と関わる楽しさや難しさ、そのときに必要な思いやりの心と論理を伝えられたらというのが一番大きかったと思います。私自身、小学校から高校まで（今でも、かもしれません）、人と関わる上で、嫌な思いをしたことも多かったのですが、反省ばかりの日々だったのですが、そこから学ぶこともたくさんあった。自分がしてきたこと、良いことも悪いことも全部ひっくるめて全ての経験が未来の自分を作るんだってことを伝えられたらと。（なんだか偉そうなことを考えてお

きながら、人に嫌われるのが怖い超小心女子大生だったところから、自分の意見を隠せずに発言できる様になったのはまた別の話）

そんな風に考えていた大学3年生の頃に会社と地域活動で出会ったのが、今の会社と地域活動です。「思いを発信するのなら、人のためを体現して動いていきたいのなら、もっと面白い方法があるんじゃないか？」と、当時の社長に提案され、地域活性化モデルとして活動していくことを決めたんです。周りからすると、私がしている仕事と、もともとやりたかった「先生」は全然違っように見えるのでしょが、私の中にある考え方はあまり変わっていません。「先生」としてやるようにしていたことを「モデル・タレント」として発信していくだけ。「山田彩乃」としてやりたかったことは何一つ変わっていませんし、むしろ色々な経験をさせていたことで知見を広げることができたと思っています。こうしてできた、今の私だからこその教育を、私のやり方で実現していくのがこれからの目標です。今はネットも普及している中で、これからはテレワークならぬ「テレスタディ」をしていくなら目下準備中。モデル活動を始めた当初から、最終的には教育の世界にと思っていたのでこれからが楽しみです。私自身もまだ途中でありますが、私の覚悟みたいな拙い文章になってしまいましたが、これが今の私の始まりです。何なら今もまた途中でですけど、見守っていただけたらいいな。

このコラムを読んでくれる皆さんの始まりはいつですか？ なにかの機会に知ることができたら嬉しいです。

新潟大学OG 山田彩乃の隔号連載コラム

“輝く女性” 研究所

新潟大学教育学部卒業。2015Miss Earth Japan (日本代表)。株式会社 Shitamichi HD 常務取締役。リリマリプロダクション代表。特定非営利活動法人 Lily & Marry's 代表。久千代～AYANO YAMA DA～代表。



Ayano Yamada

（レギュラー番組）NST「八千代コースター」毎週土曜日10:25～放送。群馬テレビ「くま一番」毎週金曜日19:30～20:00。BSNラジオ「マエカブナカズカ」その他、ウォーキングレッスン講師、講演会等もやっている。

めを体現して動いていきたいのなら、もっと面白い方法があるんじゃないか？」と、当時の社長に提案され、地域活性化モデルとして活動していくことを決めたんです。周りからすると、私がしている仕事と、もともとやりたかった「先生」は全然違っように見えるのでしょが、私の中にある考え方はあまり変わっていません。「先生」としてやるようにしていたことを「モデル・タレント」として発信していくだけ。「山田彩乃」としてやりたかったことは何一つ変わっていませんし、むしろ色々な経験をさせていたことで知見を広げることができたと思っています。こうしてできた、今の私だからこその教育を、私のやり方で実現していくのがこれからの目標です。今はネットも普及している中で、これからはテレワークならぬ「テレスタディ」をしていくなら目下準備中。モデル活動を始めた当初から、最終的には教育の世界にと思っていたのでこれからが楽しみです。私自身もまだ途中でありますが、私の覚悟みたいな拙い文章になってしまいましたが、これが今の私の始まりです。何なら今もまた途中でですけど、見守っていただけたらいいな。

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

第15回 ● 農学部 「鳥と風力発電の共存を目指して」

環境負荷の少ない発電方法として、近年、太陽光発電と並ぶ注目されている風力発電。読者の中にも、山の尾根筋などに林立する、高さ100メートルを越す大型風車群を見たことがある方もいるのではないのでしょうか。今ヨーロッパをはじめ多くの国々で、次世代エネルギー源としてその導入数を増やしています。日本でも近年、北海道や東北地方を中心に風力発電機が設置数が増え、太陽光に続く再生可能エネルギーとして注目されるようになってきました。環境にやさしいというイメージがもたれる風力発電ですが、風力発電機の導入数の増加に伴い、新たな問題も見えてきました。その一つが、風車ブレードに鳥が衝突死するケースです。風力発電の先進国である欧州や合衆国では、渡りをする猛禽類や水禽類を中心に多数のバードストライクが報告されています。国内でも、天然記念物であるオジロワシを筆頭に、イヌワシやオオワシなどの希少猛禽類、ウミネコなどの海鳥類など、さまざまな種類の鳥が衝突死する事故が後を絶ちません。※写真：風車に衝突死したオジロワシ（公財）野鳥の会提供。特に、日本は世界有数の東アジア・オーストラリア地域フライウェイ上に位置しており、多くの渡り鳥がわが国の上空を利用しているため、世界的にも風車に対する高い衝突リスクを持つ地域と言っても過言ではありません。

それを回避する有効な手法として昨今注目されているのが、鳥の衝突リスクを見える化した「脆弱性マップ」です。脆弱性マップはセンシティブティマップ(SENSITIVITY MAP)とも呼ばれており、それぞれの鳥の飛翔特性や衝突実績など、風車との関わり

関島恒夫 農学部教授

専門は、動物生態学、保全生物学。国内で希少性が高いとされる生物が普通に見られる新潟。いつまでも豊かな自然を保ち続けられるよう、生き物と人の関わりに関する研究に取り組む。

新潟大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

◎B・OGの皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス TEL : 025-262-6463 FAX : 025-262-7579 E-mail : job@adm.niigata-u.ac.jp

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」入会受付中!

新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行しています。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局
電話:025-262-7891 (受付時間 平日10:00~15:00)
E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

創生学部が文部科学省の「大学等におけるインターンシップ表彰」で最優秀賞を受賞しました

令和元年度の文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」において、本学創生学部「フィールドスタディーズ」が最優秀賞を受賞しました。創生学部の授業科目であるフィールドスタディーズは、初年次の転換教育として、地域や産業界での体験的学修を通じて、産業・地域での課題を理解し、「与えられた学修」から「主体的な学修」へ学びの意識転換を促すとともに、その後を選択する専門領域への関心を焦点化させる挑戦的な取組です。今回の選考では、教育課程における位置づけやねらいが明確であること、教育的効果の把握をインターンシップ終了時点にとどまらず継続的に実施していること、「学修ハンドブック」を教職協働で作成し担当教職員の共通理解と安定した教育の質が確保されていること等が優れた点として評価されました。創生学部の鳴海学部長らは2020年3月11日(水)に牛木学長及び小久保理事のもとを訪れ、受賞の報告を行いました。



災害・復興科学研究所が東北大学災害科学国際研究所と包括的連携に関する協定を締結しました



本学災害・復興科学研究所は、東北大学災害科学国際研究所と防災・減災に係る教育、研究、地域貢献、産学連携及び国際交流等の各方面にわたって広く協力し、社会にその成果を還元し、我が国の学術の発展、人材の育成、レジリエント社会の構築に寄与することを目的とする包括的連携に関する協定を、2020年3月26日(木)に締結しました。東北大学災害科学国際研究所は、東日本大震災1年後(2012年4月)の設立以来、自然災害の解明と、東日本大震災からの教訓に基づく防災・減災技術の再構築をビジョンに掲げ、文系・理系の垣根を越えて、広範囲な防災・減災研究と実践的活動を精力的に行っています。これまでに、災害・復興科学研究所は、東北大学災害科学国際研究所と、新潟県中越地震の復興支援、震災伝承等についての共同研究やシンポジウム開催、復旧・復興過程の地域研究等で協働してきました。今回の協定締結により、両研究所は、国内外の防災・減災研究、震災復興研究、防災教育等を、今後さらに効果的に推進していきます。なお、連携協定締結式は、新型コロナウイルスの感染予防のためマスク姿で署名し、握手はせずにあいさつのみとするもので、執り行われました。

附属学校園銘板上掲式を開催しました

本学五十嵐キャンパス松風会館にて、2020年4月2日(木)に附属学校園銘板上掲式を開催しました。本学では、教員養成機能強化の一環として、昨年4月から、各附属学校園を統括する附属学校部を設置し、部長に教育担当理事を充てるとともに、2名の統括長(大学教員兼務)の配置や校園長の常勤化など、改革の取組を行ってきました。また、令和元年度に文部科学省へ附属学校園の大学直属化を申請し、文部科学省令改正が行われ、4月1日から教育学部附属から大学直属の組織となりました。なお、附属学校園は新潟市中央区に3校、長岡市に3校園と分散していることから、大学事務局において新しい銘板の上掲式を行いました。式では、牛木辰男学長、小久保美子附属学校部部長の挨拶の後、銘板前で記念撮影を行い、新しい附属学校園のスタートとなりました。



新潟大学
季刊広報誌

六花

R I K K A 2020.SPRING No. 32

発行/令和2年5月
編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話/025-262-7000
FAX/025-262-6539

Home Page <https://www.niigata-u.ac.jp/>
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

Facebook

<https://www.facebook.com/niigata.univ>

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報センターまでご連絡ください。

リサイクル適性
この印刷物は印刷用の紙へ
リサイクルできます。